

施策評価シート (評価対象年度：平成30年度)

1. 基本的事項

① 施策名〔施策小〕	4 安心して過ごせる学校・地域づくり	② 施策番号	7504
③ まちづくりの方向〔政策(章)〕	1 すべての人が尊ばれ、その個性が発揮できるまち		
④ 基本施策〔施策大(節)〕	3 子どもが豊かな人間関係と学ぶ喜びを育むまちをめざします		
⑤ 基本的方向〔施策中〕	2 義務教育の充実		
⑥ 担当部名	⑦ 担当課名		
教育部	指導課		

2. 施策の現状把握

[1] 施策の対象・意図

① 施策の対象(誰、何に対して施策を実施するのか)	幼・小・中の児童・生徒
② 意図(対象をどのような状態にしたいのか。何を狙っているのか)	幼児・児童・生徒が安心して過ごし、学べる学校園づくり。
③ 環境(この施策を取り巻く状況はどのような状態なのか、また、国や府の動きはどのような状態で、今後どのように変化していくと考えられるか)	地域の子どもは地域で守るという意識が広まり、地域住民の協力体制も整ってきている。 国や大阪府においても、今後、ますます子どもの見守り及び安全確保については、国民・府民レベルでの見守りが図られると思われる。

[2] 施策指標及び推移

施策指標(成果指標)	単位	指標とした理由・考え方
① 登下校の見守り活動従事延べ人数 計算式	人	地域住民が子どもたちの見守り活動に従事することが犯罪や事故を防ぐ上で大きな抑止力となる。そのため、より多くの人が見守り活動に従事していただいている実態が大きな成果であると考えられるため。また、地域本部事業の主要な活動となっているため。
② 青色防犯パトロール従事延べ人数 計算式	人	
③ 計算式		

	指標名	単位	H28実績	H29実績	H30実績	R1見込	R2目標	備考
①	登下校の見守り活動従事延べ人数	人	目標値					
			実績値	13,213	18,258	14,515	—	
			達成率					
②	青色防犯パトロール従事延べ人数	人	目標値					
			実績値	905	901	931	—	
			達成率					
③			目標値					
			実績値					
			達成率					

[3] 施策を構成する事務事業

	事務事業名	成果指標				総事業費(千円)			事務事業評価結果		重点化	
		指標名	単位	H29実績	H30実績	R1見込	H29実績	H30実績	R1見込	総合評価		今後の方向性
1	学校支援地域本部事業	登下校の見守り活動従事延べ人数	人	18,258	14,515	14,000	3,775	3,712	3,794	A	ア	
2												
3												
4												
5												
6												
7												
8												
計	1						3,775	3,712	3,794			

3. 施策の評価

評価の視点	説明・コメント等
①本施策の意図すること(目的)は、上位施策(施策中)の達成にどのように貢献しますか。 (施策所管課等としての考えをお示ください。)	登下校中の通学路において地域住民の見守りがあることは、不審者や交通事故の抑止につながり、子どもたちが安心して学べる環境づくりにつながっている。
②本施策で設定した指標から何が読み取れますか。 (2[2]の表の数値の推移から分析できることをお示ください。)	多くの地域住民が子どもたちの見守りに従事している。
③本施策において市民、団体等との役割分担や市の関与は適切ですか。 (施策所管課等としての考え(理想と現実)をお示ください。)	市民ボランティアが基本であり、最大限の協力をいただいている。しかしながら、後継者の募集や青色防犯パトロール車両の維持費等今後の課題も残る。
④施策を構成する事務事業は適正ですか。 (2[3]を踏まえ、施策目標に対し事務事業にずれはないか、数が適正かについて考えをお示ください。)	事業内容等適正であると考えている。安全推進事業と重なる部分がある。
⑤施策を構成する事務事業の中で重点化及び縮小化についてどのように考えますか。 (2[3]において、◎、○、▲とした理由をお示ください。)	今後も学校・家庭・地域を結び付ける教育コミュニティづくりの上で、より重点化を図る必要があると考える。

4. 一次評価(所管課評価)

	評価(A~D)	課題等	A: 施策達成に向けた取組や展開などが大変評価できる B: 施策達成に向けた取組や展開などが適切に行われている C: 施策達成に向けた取組や展開などが適切に行われているものの、改善の余地がある D: 施策達成に向けた取組や展開などが不十分であり、改善の余地が大いにある
一次評価	A	多くの地域住民の協力を得て効果的な活動を継続しており、今後も後継者の確保に努め事業を進めてまいりたい。	

5. 改革、改善案

即時的対応 (すぐに取り組む改善案)	後継者の確保。
短期的対応 (1、2年のうちに取り組む改善案)	学校教職員と地域ボランティアとの有効に意思の疎通、交流のための行事等の実施。
中長期的対応 (3~5年をめぐりに取り組む改善案)	安全見守りだけでなく、幅の広い活動の構築。

6. 二次評価(行革・財産活用室評価)

	評価(A~D)	課題等	A: 施策達成に向けた取組や展開などが大変評価できる B: 施策達成に向けた取組や展開などが適切に行われている C: 施策達成に向けた取組や展開などが適切に行われているものの、改善の余地がある D: 施策達成に向けた取組や展開などが不十分であり、改善の余地が大いにある
二次評価	B	登下校の見守り活動や青色防犯パトロールによる地域住民の子どもたちの見守りにより、施策達成に向けた取組が適切に行われている。 活動を支える地域ボランティアの育成など、継続した支援協力が得られる体制づくりへの取組を進められたい。	